

# 平成25年度長岡市の児童生徒・保護者・教員意識調査 集計結果<要約版>

## 1 児童生徒

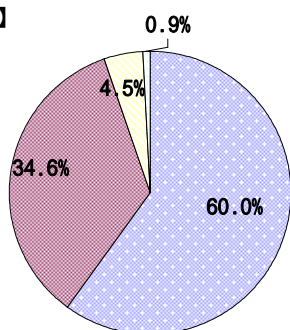
### (1) 学校での様子や授業について

小中学生ともに9割を超える子どもが、学校に行くことを楽しいと感じている。18年度調査と比べ、「とても楽しい」と感じている子どもは10%以上増加している。しかし、10%未満ではあるが、「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」という児童生徒がいる。

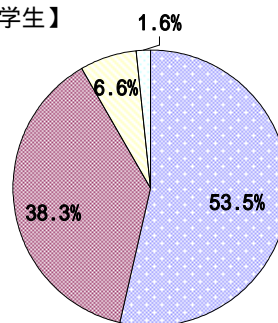
また、授業で「わかる」「できる」と感じている割合は、小学生では約91.3%、中学生では83.0%であり、18年度調査と比べ、いずれも上昇している。

#### ・学校に行くのが楽しいですか

【小学生】



【中学生】

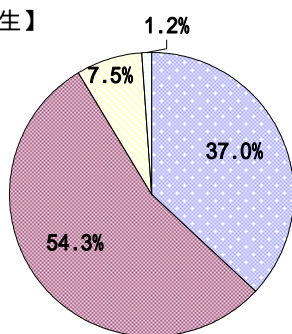


小学生の94.6%（18年度は93.1%）、中学生の91.8%（18年度は88.5%）が学校へ行くことを「とても楽しい」「少しは楽しい」と感じている。「とても楽しい」「少しは楽しい」理由の一番は小中学生ともに「友だちと遊んだり、おしゃべりをしたりすることが楽しいから」で、小学生では90.0%、中学生では87.9%である。

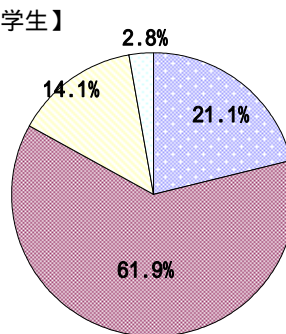
学校へ行くことを「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」と回答した子どもは、小学生は5.4%、中学生は8.2%である。「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」という理由の一番は、小学生は「疲れていて、朝起きるのがつらいから」で47.8%、中学生は「授業があまり分からなくておもしろくないから」で56.6%である。

#### ・授業で「わかる」「できる」と感じていますか

【小学生】



【中学生】



授業で「わかる」「できる」かの問に対し、「とても感じている」「少しは感じている」割合は、小学生91.3%（18年度は89.4%）、中学生83.0%（18年度は79.4%）である。

授業で「わかる」「できる」の問に対し、「あまり感じていない」「まったく感じていない」と回答している小学生は8.7%（18年度は10.6%）、中学生は16.9%（18年度は20.5%）である。

## (2) 家庭生活の状況について

中学生の約6割が11時過ぎに寝ると答えており、夜型の生活をしている中学生が多いことがうかがえる。

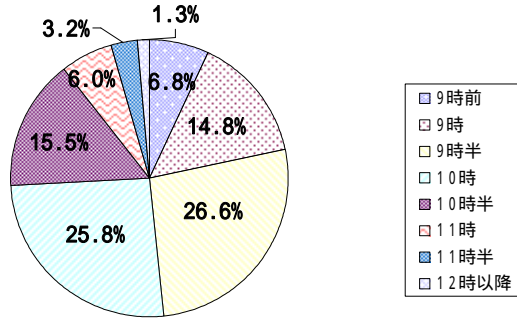
朝食を「いつも食べる」子どもは、小中学生ともに80%を超えている。

また、家庭で自分に決められた手伝い(仕事)が「ある」という小学生は約8割、中学生は約7割程度である。

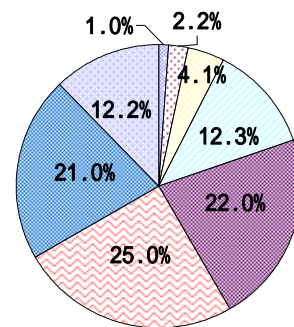
休みの土曜日の過ごし方では、小中学生ともテレビやビデオ・DVDを見ている割合が最も多い。小中学生で最も長い過ごし方は「友だちと遊ぶ」である。

### ・平日の夜は、何時ころに寝ていますか

【小学生】



【中学生】

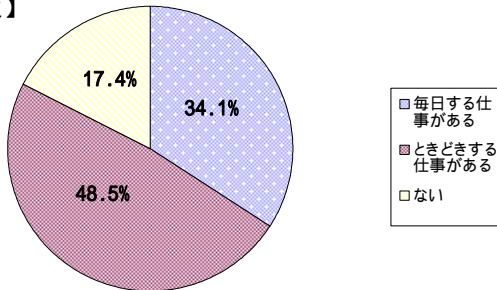


中学生の58.2%が11時より遅い時間に就寝している。12時以降に就寝している中学生は12.2%である。

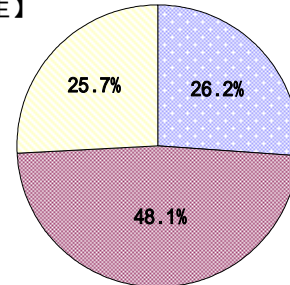
毎日、朝食で「主食とおかずをバランスよく食べる」と「ほぼ毎日食べるが、主食やおかずにかたよりのある」と答えた割合の合計は、小学生94.4%、中学生94.0%である。

### ・自分がかならずする手伝い(きめられた仕事)がありますか

【小学生】

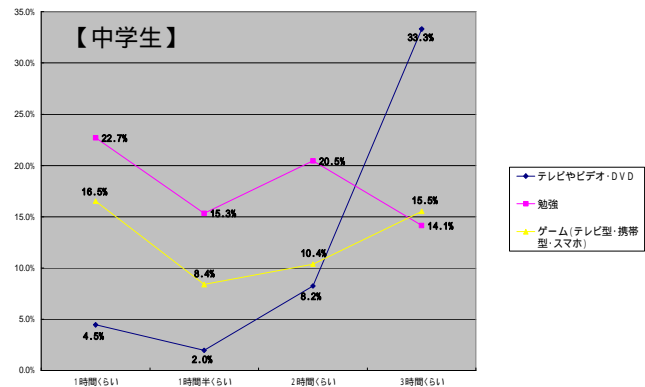
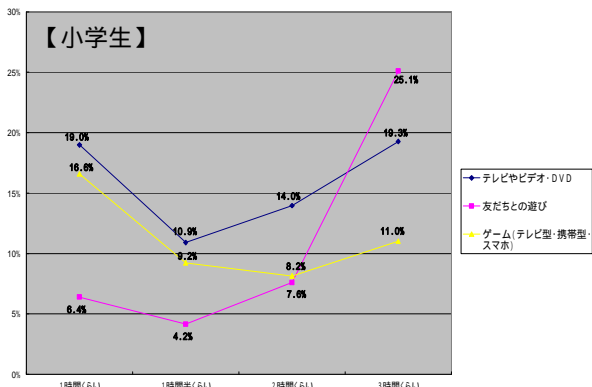


【中学生】



自分がかならずする手伝い(きめられた仕事)が「毎日ある」という小学生は34.1%、中学生は26.2%であり、「ときどきある」という小学生は48.5%、中学生は48.1%である。

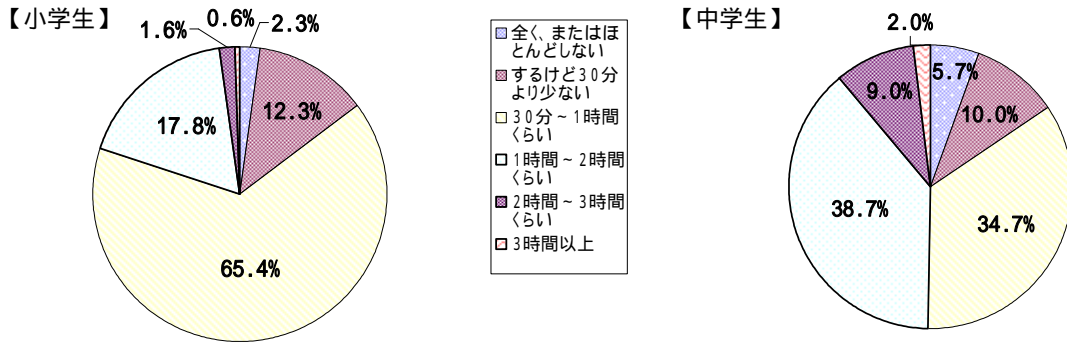
休日の土曜日の過ごし方では、次の順に時間を使っていると回答している。以下の%は、1時間くらい、1時間半くらい、2時間くらい、3時間くらいの順に記載した。



### (3) 家庭学習等の状況について

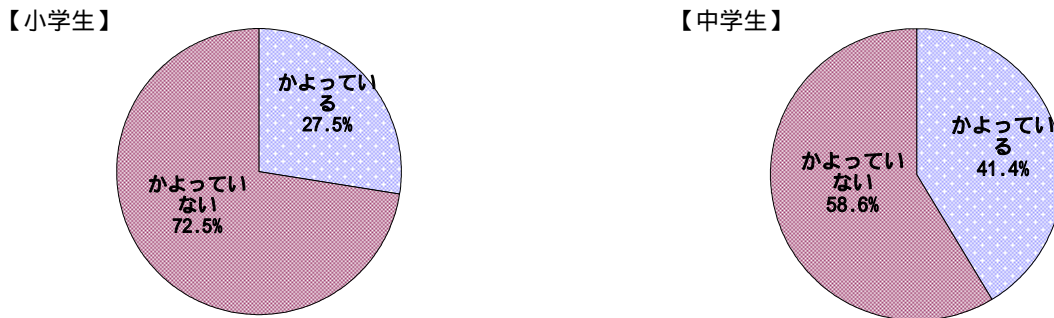
平日の家庭学習時間は18年度調査と比べ、全体的に増加している。特に、1時間以上行っている生徒は、小学生は20.0%（18年度は、18.6%）、中学生は49.7%（18年度は29.4%）であり、特に中学校では大きく増加している。  
通塾については、小学生の27.5%、中学生の41.4%が学習塾に通っている。

#### ・平日に家庭学習（宿題を含む）をだいたいどのくらいしますか



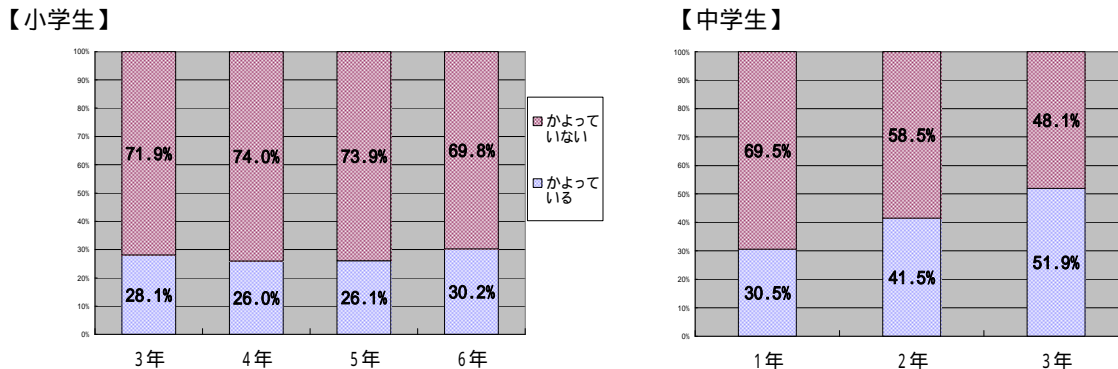
家庭学習時間については、中学生で、「ほとんどしない」「30分より少ない」と答えた生徒は、15.7%（18年度では32.0%）と減少しており、多くの中学校で、自主学習に取り組みせたり、小中連携で家庭学習強調週間を設定したりしている成果であると考えられる。

#### ・学習塾（英会話も含む）にかよっていますか



小学生は、学年別で通塾の割合に大きな差はない。中学生は、1年生約30.5%、2年生41.5%、3年生51.9%と学年が上がるが増加する。

#### ・学習塾（英会話も含む）にかよっていますか（学年ごとの推移）



中学生の通塾は、週に1回が32.4%、週2回が45.3%であり、中学生全体の約5人に1人は週2日学習塾に通っている。

#### (4) 携帯電話やパソコンについて

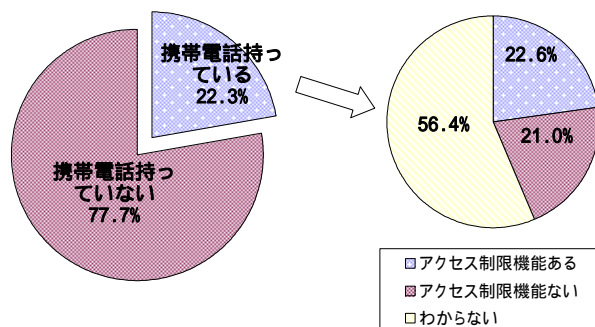
自分の携帯電話（スマホを含む）を持っている子どもへの問いに対し、アクセス制限機能（フィルタリング）があると答えた小学生は約2割、中学生は約4割である。

家で自由にインターネットを使うことができると答えた割合は、小学生で51.2%、中学生で80.6%である。

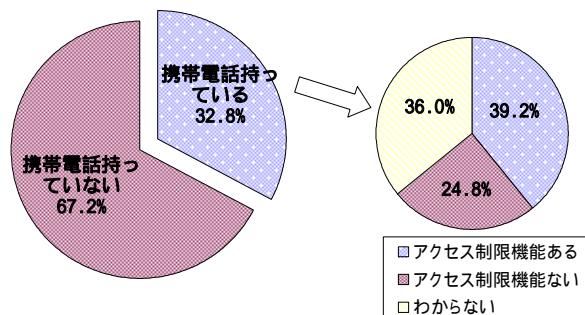
携帯電話やパソコンのメールでこわい思いやいやな気持ちにさせられた経験があると答えた割合は、小学生が3.4%、中学生が11.6%である。

#### ・（携帯電話を持っていますか）携帯電話にアクセス制限機能はありますか

【小学生】



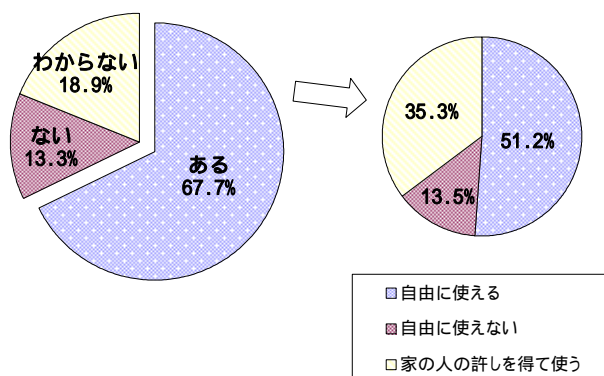
【中学生】



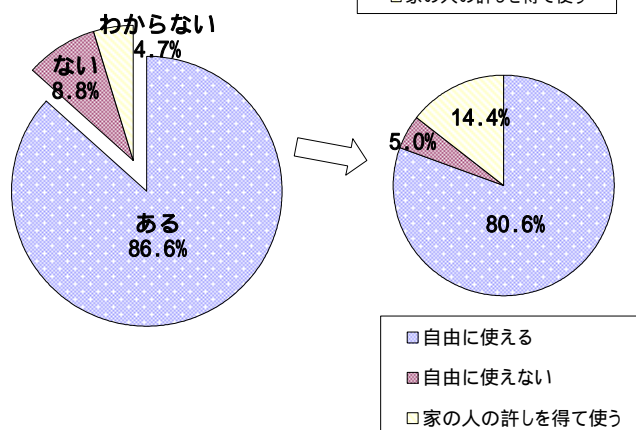
#### ・家にインターネットにつながるパソコンはありますか

#### ・自由にインターネットを使うことができますか

【小学生】



【中学生】



自分の携帯電話（スマホを含む）を持っている子どもへの問いに対し、アクセス制限機能があると答えた割合は、小学生は22.6%、中学生は39.2%にとどまっている。その他は、「ない」「わからない」と回答している。

自分の携帯電話（スマホを含む）を持っている子どもへの問いに対し、友だちと「よく」「ときどき」メールをすると答えた割合は、小学生で23.2%、中学生で77.7%である。

自分の携帯電話（スマホを含む）を持っている子どもへの問いに対し、インターネット上の相手とメールをしたり、掲示板などに書き込みをしたりすることが「よくある」「ときどきある」と答えた割合は、小学生で8.1%、中学生で30.7%である。

パソコンで友だちと「よく」「ときどき」メールをすると答えた割合は、小学生で9.5%、中学生で31.6%である。

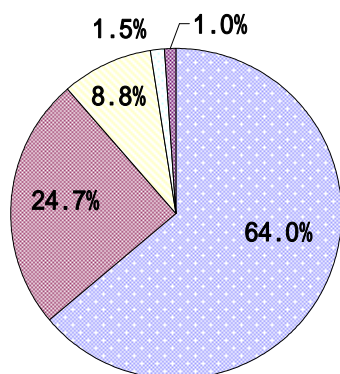
パソコンで、インターネット上の相手とメールをしたり、掲示板などに書き込みをしたりすることが「よくある」「ときどきある」と答えた割合は、小学生で7.7%、中学生で19.8%である。

### （５）町内（地域）とのかかわりについて

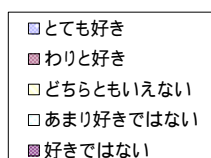
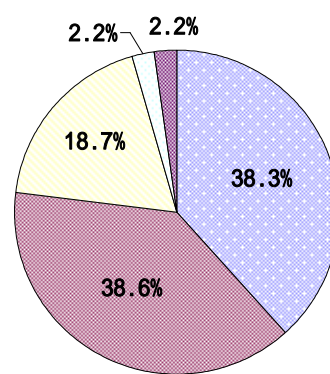
町内のお祭りや運動会など地域の行事への参加率は、小学生が中学生よりも高いが、中学生の参加率は18年度よりも増加している。長岡市が「とても好き」「わりと好き」という割合は小学生で約9割、中学生で約7割であり、18年度よりも上昇している。

#### ・長岡が好きですか

【小学生】



【中学生】



町内のお祭りや運動会など地域の行事に参加したことが「かなりある」割合は、小学生62.7%（18年度は66.7%）、中学生42.7%（18年度は40.9%）である。

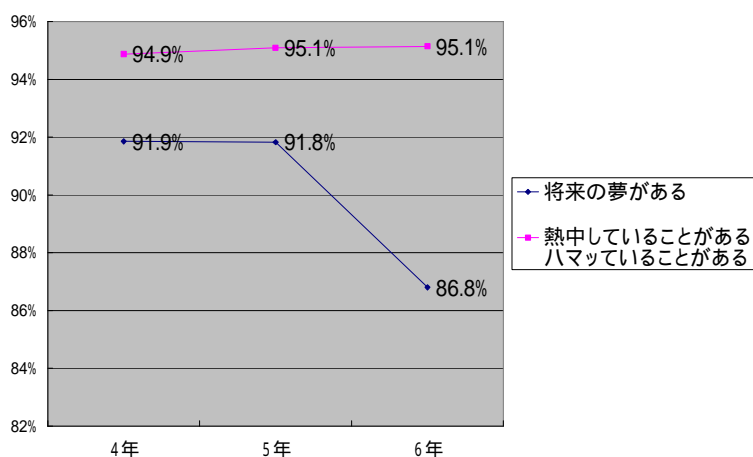
長岡が「とても好き」「わりと好き」という割合は、小学生88.7%（18年度は80.0%）、中学生76.9%（18年度は65.3%）である。「好きではない」「あまり好きではない」は、小中学生ともに10%未満である。

## (6) 将来の夢について

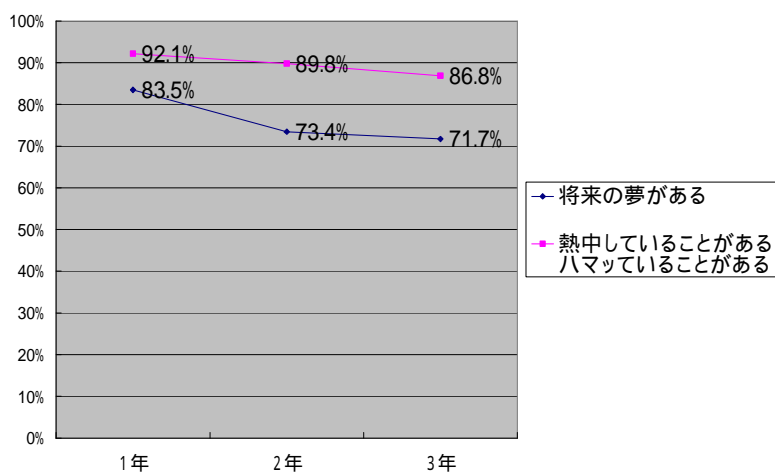
小学生の90.1%、中学生の76.1%が将来の夢をもっていると答えている。また、熱中していることやハマっていることがあると答えた割合は、小学生が95.0%、中学生が89.6%である。

- ・ 将来の夢がありますか
- ・ 熱中していることや大好きでハマっていることはありますか

### 【小学生】



### 【中学生】



将来の夢があると答えた中学生の割合は学年が上がるごとに減少し、1年生が83.5%、2年生が73.4%、3年生が71.7%となっている。熱中していることやハマっていることの上位は小中学生共通で、第1位にあげたものが最も多いのは運動・スポーツ(小学生25.6%、中学生28.2%)、次いでゲーム(小学生20.0%、中学生15.4%)、その次が友達と遊ぶこと(小学生11.5%、中学生8.7%)である。

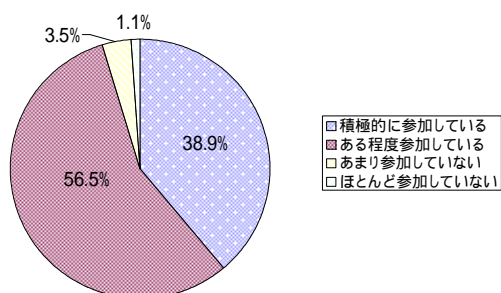
## 2 保護者・教員

### (1) 学校行事(授業参観、PTAの会合や行事、体育祭や音楽発表会)への参加状況について

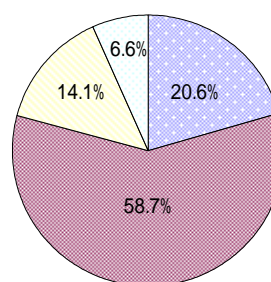
学校行事に「積極的に参加している」「ある程度参加している」という保護者は、小学校95.4%、中学校79.3%であり、中学校になると「参加しない」という保護者の割合が増える。

・学校行事(授業参観、PTAの会合や行事、体育祭や音楽発表会など)に参加していますか。

【小学校保護者】



【中学校保護者】



「積極的に参加している」という割合は、32.5%(18年度は29.6%)である。「ある程度参加している」という割合は、57.2%(18年度は59.1%)である。

小学校保護者は、「あまり参加していない」「ほとんど参加していない」の割合は4.6%であるが、中学校保護者は、21.0%と増加する。

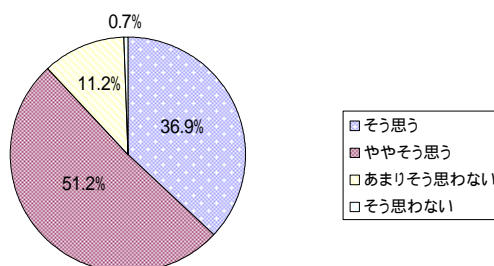
### (2) 教員から見た子どもの実態について

学力の二極化の傾向が見られるかという問いに「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は、平成18年度調査と比較すると、81.5%から88.1%に増加している。

また、依然として高いのは、人間関係やコミュニケーション能力の低下している子どもが増えている(90.6%)、ちょっとくらい嫌なことや苦しいことを我慢できない子どもが増えている(90.2%)の二つである。

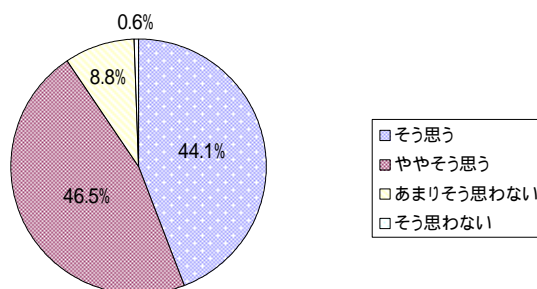
・子どもの実態について

学力の二極化が見られる



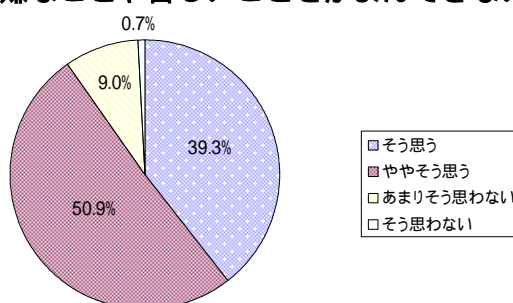
学力の二極化が見られるかの問いに対し、「そう思う」が36.9%(18年度は33.9%)、「ややそう思う」が51.2%(18年度は47.6%)となっており、合計で7ポイント近く増加している。

### 人間関係づくりやコミュニケーション能力の低下している子どもが増えている



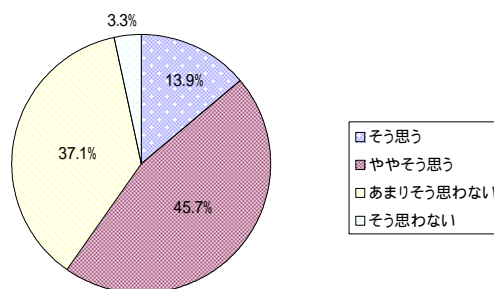
人間関係づくりやコミュニケーション能力の低下している子どもが増えているかの問に対し、「そう思う」が44.1%、「ややそう思う」が46.5%で合計が90.6%となっている。

### ちょっとくらい嫌なことや苦しいことを我慢できない子どもが増えている



ちょっとくらい嫌なことや苦しいことを我慢できない子どもが増えているかの問に対し、「そう思う」が39.3%、「ややそう思う」が50.9%で合計が90.2%となっている。

### 学習意欲の低下している子どもが増えている



学習意欲の低下している子どもたちが増えていると答えた教員の割合は、18年度が64.4%であったのに対し、今回の調査では59.6%に減少している。

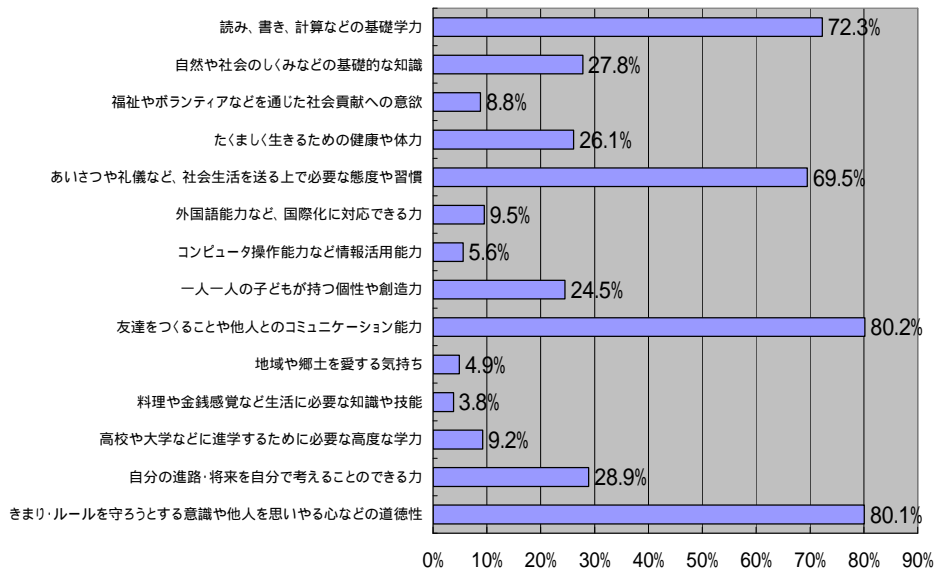


### (3) 学校ではどんな力を身に付けさせるべきかについて

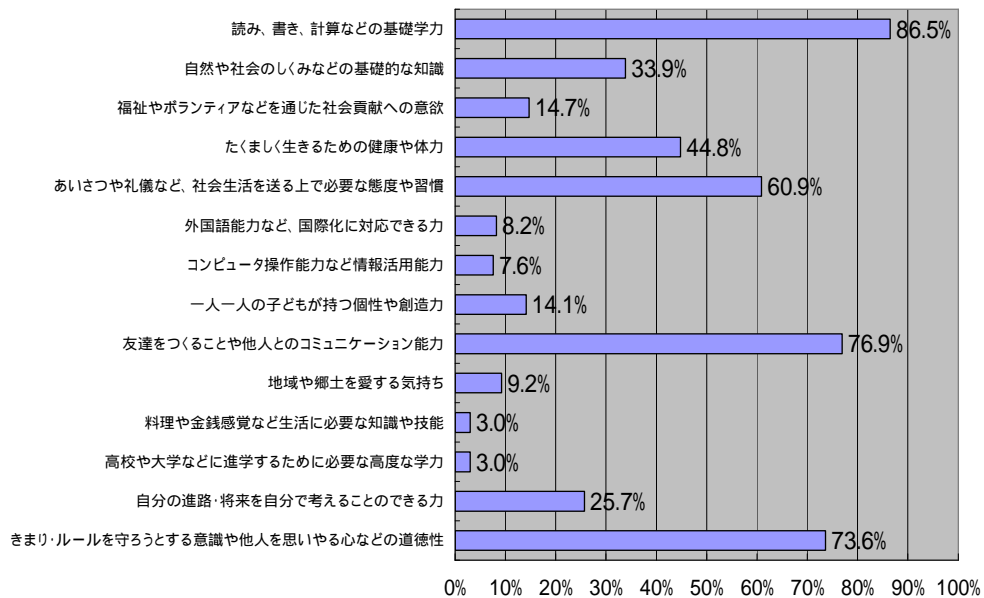
教員、保護者ともに「読み、書き、計算などの基礎学力」「友だちをつくることや他人とのコミュニケーション能力」「きまりルールを守ろうとする意識や他人を思いやる心などの道徳性」が上位3項目となったが、その順位は、教員と保護者とで異なっている。

- ・小中学校の教育で、どんな力を身につけさせることを期待していますか（保護者）
- ・学校ではどんな力を身につけさせるべきだと思いますか（教員）

#### 【保護者】



#### 【教員】



「読み、書き、計算などの基礎学力」については、教員で最も多く、86.5%（18年度は92.0%）、保護者では72.3%（18年度は81.4%）が挙げている。

「友だちをつくることや他人とのコミュニケーション能力」については、教員の76.9%（18年度は84.1%）、保護者では最も多く80.2%（18年度は80.4%）が挙げている。

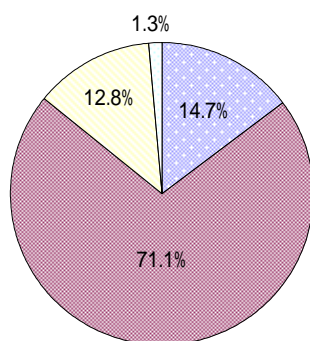
「きまりルールを守ろうとする意識や他人を思いやる心などの道徳性」は今回の調査で新たに選択肢に加えたが、教員が73.6%、保護者が80.1%で、高い割合を占めている。

#### (4) 家庭での子どもへのしつけについて

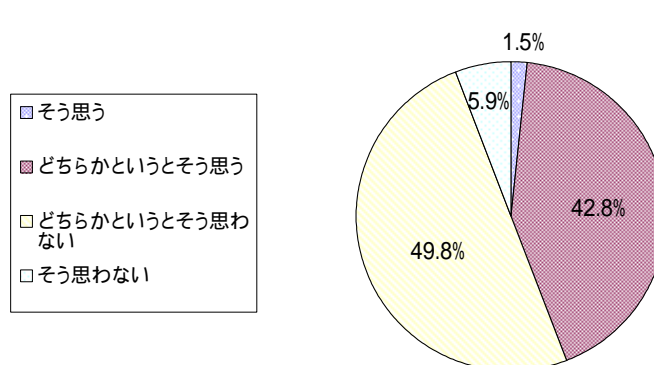
85.8%の保護者が、自分の子どもにある程度きちんとしつけをしていると思っている。しかし、85.1%の教員は、しつけや基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増えていると感じており、家庭では、子どもにきちんとしつけをしていると思いますか、という質問に「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した教員は、44.3%であり、保護者と教員の間には大きな意識のずれがある。

- ・子どもにきちんとしつけをしている方だと思いますか（保護者）
- ・家庭では、子どもにきちんとしつけをしていると思いますか（教員）

【保護者】



【教員】



子どもに「きちんとしつけをしている」「どちらかというそう思う」と答えた保護者の割合は、85.8%（18年度は86.6%）である。  
「『おはよう』『いただきます』『ありがとう』などの挨拶ができるようにさせる」「人に迷惑をかけない、また、かけたときはきちんとあやまることを教える」「時間を守る、約束を守るなど社会生活で大切なきまりやルールを教える」「毎日朝食を食べさせる」などの項目については、「かなり心がけている」「ある程度心がけている」という保護者は18年度と同様、95%を超えている。  
「子どもに言うだけでなく、自らお手本となるような生活や生き方を心がけている」ということに「かなり心がけている」「ある程度心がけている」と回答した保護者は、79.5%（18年度は81.0%）である。  
しつけや基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増えていると感じている教員の割合は、85.1%（18年度調査は89.9%）である。  
「家庭では、子どもにきちんとしつけをしていると思いますか」という問いに「そう思う」「どちらかというそう思う」と回答した教員の割合は44.3%であり、18年度の35.1%よりも増加しているが、保護者の85.8%がしつけをきちんとしている方だと回答しているのと比べ、意識のずれは大きい。

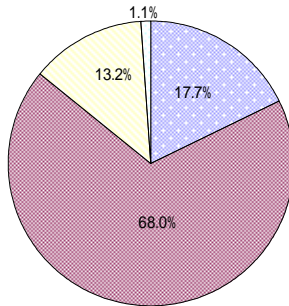
## (5) 家庭の教育力について

保護者、教員ともに家庭の教育力が低下していると答えた割合は減少している。但し、その理由や原因の割合については、保護者と教員のとらえで違いがある。

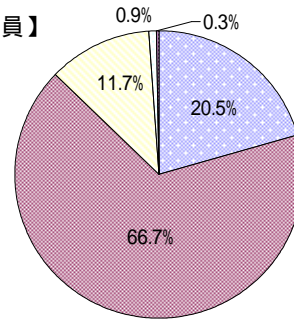
・家庭の教育力が低下しているのではないかという声もありますが、あなたはどう思いますか(保護者)

・家庭の教育力が低下していると言われていますが、あなたはどう思いますか(教員)

【保護者】



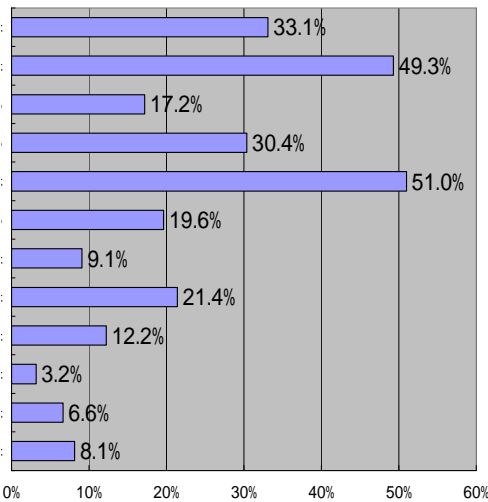
【教員】



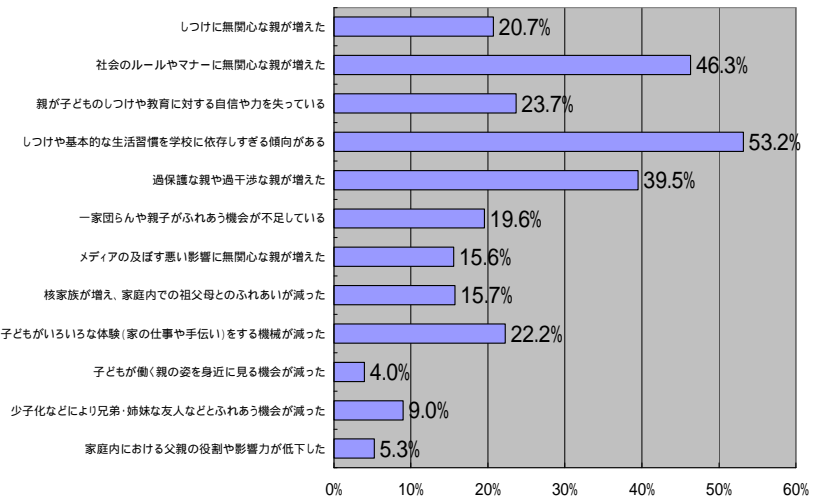
家庭の教育力が低下傾向にあると感じている保護者の割合は、72.0% (18年度は76.6%)、教員が87.2% (18年度は91.2%)である。家庭の教育力に「変化はない」という保護者の割合は、25.1% (18年度は20.3%)、教員の割合は、11.7% (18年度は8.1%)である。

・低下していると回答した理由や低下の原因はなんだと思いますか

【保護者】



【教員】



家庭の教育力が低下した理由や原因として保護者があげた上位3項目は、

- ・「過保護な親や過干渉な親が増えた」51.0%
- ・「社会のルールやマナーに無関心な親が増えた」49.3%
- ・「しつけに無関心な親が増えた」33.1% の順である。

家庭の教育力が低下した理由や原因として教員があげた上位3項目は、

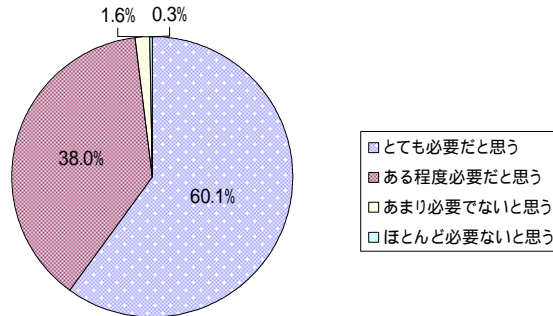
- ・「しつけや基本的な生活習慣を学校に依存しすぎる傾向がある」53.1%
- ・「社会のルールやマナーに無関心な親が増えた」46.2%
- ・「過保護な親や過干渉な親が増えた」39.5% の順である。

子どもの基本的な生活習慣(起床・睡眠・食事など)の定着と、学習意欲や成績が「かなり関係がある」「ある程度関係がある」と思っている割合は、保護者が97.4%、教員99.1%である。

## (6) 家庭・地域・学校の連携について

ほとんどの保護者が、子どもの教育のために、家庭・地域・学校が連携・協力することの必要性を感じている。実際に自分の学校区で連携・協力が十分にできているかについての割合は、保護者、教員ともに平成18年度では約80%であったが、今回は更に上昇している。

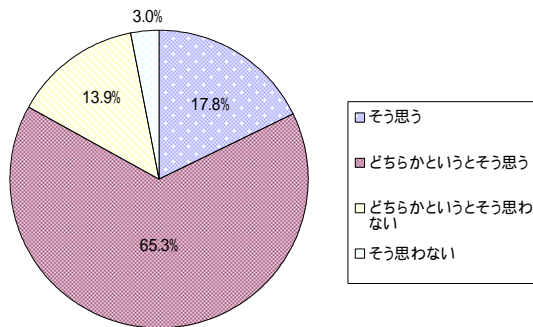
・家庭・地域・学校が連携・協力し合うことは、子どもの教育に必要なことだと思いますか（保護者のみ）



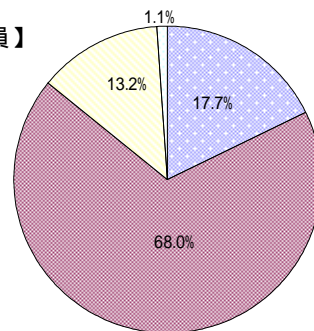
家庭・地域・学校が連携・協力し合うことは、子どもの教育に必要なことだと思うかという質問に、「とても必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と考えている保護者の割合は、98.1%である。

・子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分に行われていると思いますか

【保護者】



【教員】



実際に自分の学校区（地域）で、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分に行われているかについて「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した保護者の割合は、83.1%（18年度は80.0%）である。

自分の学校区（地域）で、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分に行われていると思うかという問いに、「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した教員の割合は85.7%（18年度は81.4%）であり、保護者、教員ともに増加している。

保護者が、家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもの教育を進める上で重要であると考える取組の上位3項目は以下のとおりである。

- ・「教員と保護者が話し合う機会を多くする」28.6%
- ・「学校が地域の人や保護者の意見を十分に聞くためのしくみをつくり、学校の運営に生かす」27.9%
- ・「体育館やグラウンド、図書館などの学校の施設や設備を積極的に開放する」25.0%

教員が、家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもたちの教育を進めるうえで重要であると考える取組の上位3項目は以下のとおりである。

- ・「児童生徒の安全確保のために保護者・地域の力を最大限発揮してもらう」30.7%
- ・「学校が地域の人や保護者の意見を十分に聞くためのしくみをつくり、学校の運営にいかす」30.4%
- ・「学級通信、学校だよりやホームページなどで学校の情報を積極的に提供する」30.0%

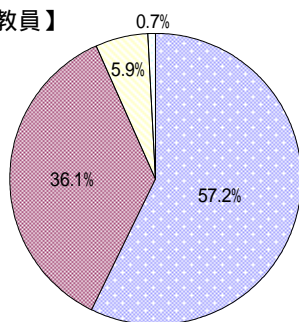
## (7) 教員が多忙であるかについて

日々の教育実践や業務で多忙であるかについて、小中学校ともに教員の9割以上が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。

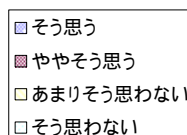
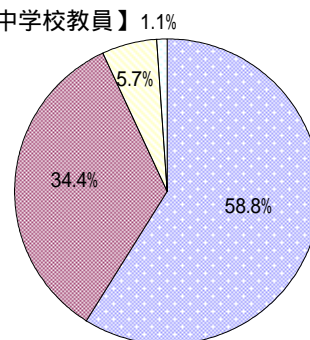
日々の教育実践や業務で困難を感じることは、小中学校ともに「生徒指導の難しい子どもたちが多い」が最も多いが、それ以外の項目や順位は小中学校で異なっている。

### ・学校での日々の教育実践や業務によって多忙であると思いますか

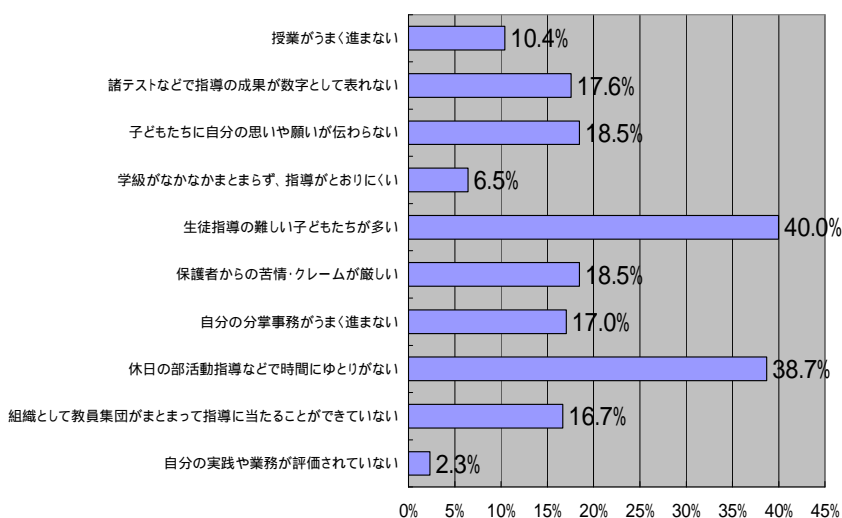
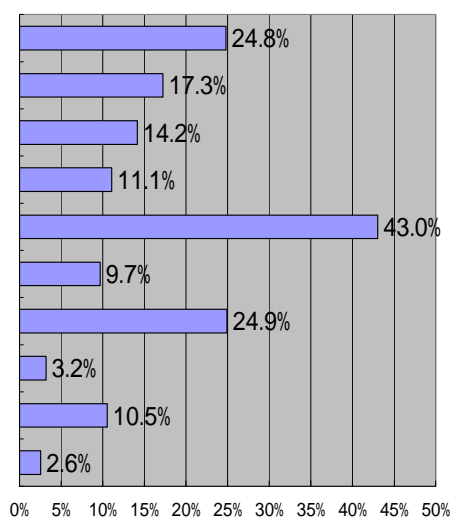
【小学校教員】



【中学校教員】



日々の教育実践や業務で多忙であるかについて、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は93.3%である。



日々の教育実践や業務で困難を感じることは、小中学校ともに「生徒指導の難しい子どもたちが多い」ことが最も高い割合を占め、小学校が43.0%、中学校が40.0%である。

それ以外で、小学校教員は以下のことに困難を感じている。

- ・自分の分掌業務がうまく進まない(24.9%)
- ・授業がうまく進まない(24.8%)
- ・諸テストなどで指導の成果が数字として表れない(17.3%)

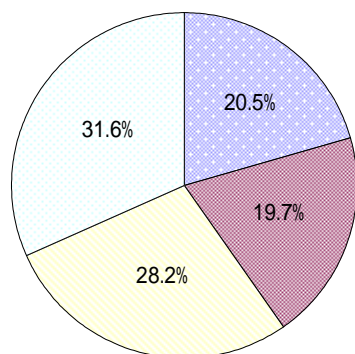
中学校教員は、以下のことに困難を感じている。

- ・休日の部活動指導などで時間にゆとりがない(38.7%)
- ・子どもたちに自分の思いや願いが伝わらない(18.5%)
- ・保護者からの苦情・クレームが厳しい(18.5%)

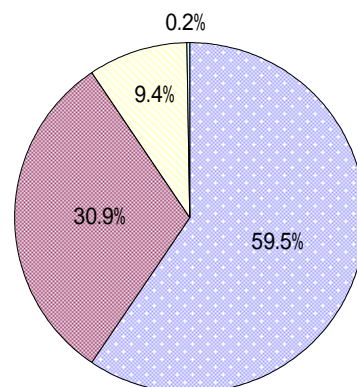
## (8) 「熱中！感動！夢づくり教育」が知られているかについて

名前も内容も「だいたい知っている」「少しは知っている」と回答している教員の割合が90.4%であるのに対し、保護者の割合は40.2%にとどまっている。名前も内容も知らない保護者は31.6%おり、広報・PRを図っていく必要がある。

【保護者】



【教員】



□ 名前も内容もだいたい知っている  
■ 名前も内容も少しは知っている  
□ 名前は知っているが、内容はよくわからない  
□ 名前も内容も知らない

## (9) 保護者・教員から寄せられた自由記述について

学校教育や教育行政・施策にかかわり、教育委員会へ望むことを記述した保護者アンケートの総数は650通あり、その中で最も多かったのは「教育施策の充実」(34%)、次に多かったのは「教員の資質・指導力向上」(24%)である。

一方、教育活動の中で課題と考えていることや困っていることを記述した教員アンケートの総数は373通あり、その中で最も多かったのは「教員の多忙化解消」(40%)である。

保護者の記述では、主に以下の事項が挙げられた。

- ・教育施策の充実(34%)
- ・教員の資質・指導力向上(24%)
- ・学校施設の整備・充実(11%)
- ・学校・家庭・地域の連携(7%)
- ・土曜授業の復活(5%)
- ・いじめへの対応(4%)

教員の記述では、主に以下の事項が挙げられた。

- ・教員の多忙化解消(40%)
- ・教員の資質・指導力向上(10%)
- ・子どもの変化・対応(10%)
- ・教育施策の充実(9%)
- ・特別支援教育の充実(8%)
- ・学校・家庭・地域の連携(7%)